

北海道、未来への「架け橋」〜北海道遺産〜

北海道の宝物

それは夢と元気をはぐくむ

未来への贈り物

NPO法人やきもの21理事長

森陵一氏

北海道知事

高橋はるみ氏

北海道遺産構想推進協議会会長

辻井達一氏

コーディネーター
北海道新聞社取締役広告局長
池田清志氏

座談会



北海道遺産びと

次の世代に引き継ぎたい北海道ならではの宝物、それが「北海道遺産」。

豊かな北の大自然や歴史、文化、生活、産業など、

第1回選定、第2回選定合計の応募数約2万5千通。

そこに書かれた延べ約5千300件もの有形・無形の候補の中から

2001（平成13）年の第1回選定により25件が、

さらに04（平成16）年には27件が選定され、合計52件の遺産が誕生した。

まちの宝物を探し、守り、活用することで

北海道の元気や新しい魅力発掘につなげたい—。

そんな思いの込められた北海道遺産は、今後どんな展開をしていくのだろうか。

北海道知事の高橋はるみ氏と、北海道遺産構想推進協議会会長の辻井達一氏、

さらに第2回選定で「江別のれんが」が選定された

NPO法人やきもの21理事長の森陵一氏をお迎えし、

北海道遺産と北海道の未来像について、それぞれの立場から意見や思いを語っていただいた。

なお、座談会は「札幌苗穂地区の工場・記念館群」として北海道遺産に選定された

「サッポロビール博物館」で行いました。

2005（平成17）年3月18日の北海道新聞広告特集「北海道、未来への「架け橋」〜北海道遺産」に掲載された座談会を、北海道新聞社のご協力により再掲しています。内容はすべて掲載当時のものです。